

令和8年度春号

赤十字いしかわ

想いの力を、
救う力に。



 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

災害や紛争、貧困や感染症で
傷つき苦しんでいる人をなんとしても救いたい。
私たちが動かしているのは、
この強い想いなんだ。
あなたの想いを赤十字と一緒に、
救う力に変えませんか。

赤十字は、
動いてる！
with You



いのちと健康を守る知識と技術の普及 赤十字講習会



いざというときに自分自身の身を守り、身近な人のいのちと健康を守るため、救急法などの講習会を開催しています。



赤十字講習は100周年を迎えました!

日本赤十字社は、災害救護のノウハウの一部を一般市民にも共有することによって、より多くのいのちを救おうと1926年(大正15年)から講習事業を開始。今年には講習事業を開始して100年目の節目の年です。現在までにのべ2,071万人が受講しています。



赤十字講習会のあゆみ

01 原点は「目の前で苦しむ人を救えなかった悔しさと無力感」

赤十字の創始者であるアンリー・デュナンは、1859年6月イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノの近くを通りかかり、「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない」との信念のもとに救護活動にあたりました。その「いのちを守る」想いは、今も赤十字活動の根幹となっております。



02 時代とともに進化し、広がる「救う手」

1882年にドイツ赤十字社で世界初の救急法講習が行われて以来、日本でも社会のニーズに合わせて講習会は進化してきました。

年代	進化のポイント	主なトピック
1926年	普及の始まり	「衛生講習会」スタート
1930年代	専門性の分化	「水上安全法」「救急法」スタート
1940年代	家庭への普及	「家庭看護法」スタート/ボランティア指導員制度を導入
1950-80年代	対象の多様化	「雪上安全法」「幼児安全法」スタート
1980-90年代	技術の進化	一般市民による心臓マッサージ解禁
2000年代~	AEDの普及	一般市民によるAED使用が認められる



03 石川県支部の講習会の昔と今

救急法



水上安全法



そして、現代…

時代とともに技術は進化しましたが、命を救うのは、今も昔も、その場に居合わせた「誰か」の担当です。誰もがその「誰か」になれるよう、赤十字はいのちと健康を守る知識・技術の普及を続けています。



04 選べる講習プログラム

目的に合わせて、以下のプログラムから学ぶことができます。

救急法



けがや事故で慌てないように

- 事故防止
- けがの手当て
- 心肺蘇生
- AEDの使い方 など

健康生活支援講習



健やかな高齢期を迎える準備はできていますか？

- フレイル予防
- 認知症予防
- 地域における支援活動 など

幼児安全法



子どもの急病やケガ、どうしますか？

- 子どもに多い事故の予防
- 急病の看病
- 乳幼児の心肺蘇生 など

水上安全法



水と親しみ、水の事故を防ぐ

- 水の事故防止
- 泳ぎの基本
- 溺れた人の救助方法 など

05 活動を支える「指導員」

ボランティアを中心とする「指導員」が、赤十字の講習事業を支えています。さまざまな職業の方々が、専門の教育を受けて指導員となり、地域社会のためにボランティアとして活動しています。



赤十字講習会について詳しくは日本赤十字社石川県支部ホームページをご覧ください。

赤十字いしかわ講習



赤十字防災セミナー

～講習会とともにいま伝えたい大切な知識と技術～

日本赤十字社では、大規模災害から人々のいのちを守るために、「自助」と「共助」の力を高める防災教育にも力を入れています。

「教わる防災」から、自分たちで「考える防災」へ

防災・減災への備えの「気づき」が芽生える動画コンテンツを紹介します。

おうちの中のモンスター

家の中にひそむ危険を「見えないモンスター」として描写。家具や家電の危険度を見直します。



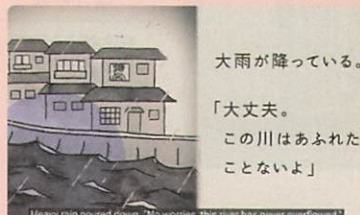
ぶるぶる ぶるぶる がたがた がたがた

ご視聴はこちら /



不安が見えなくなるメガネ

「不安」を肯定し、起こり得る危機が想像できなくなる状態を映像化。考えるきっかけを示します。



ご視聴はこちら /



赤十字防災セミナー

災害時に予想される被害、避難生活などの課題をイメージしながら、命を守る方法を学びます。



受けた公的支援で教える命は少なからずあります

ご視聴はこちら /



子どもたちが安全隊長

幼児向け防災セミナーの事例を紹介。大切な人を守りたい子どもたちの姿に、大人も学びます。



ご視聴はこちら /



令和6年能登半島地震の 発災から二年が経過しました…

令和6年能登半島地震における日本赤十字社の救護活動の記録をまとめました。

日本赤十字社では、全国各地から救護班や日赤災害医療コーディネートチーム、こころのケア班を被災地に派遣するとともに救援物資を配布するなど、全社を挙げて救護活動を展開してまいりました。県内の赤十字施設も「石川県支部」だけでなく、「金沢赤十字病院」「石川県赤十字血液センター」も救護活動を実施してまいりました。

この記録誌は、能登半島地震における日本赤十字社の活動を今後の大規模災害対応における課題と教訓を含んだ記録として伝え残すことを目的としております。下記よりデジタルブックとしてご覧いただけますので、ぜひ赤十字の活動にご理解いただき、あたたかいご支援を賜りますようお願いいたします。

「令和6年能登半島地震
～日赤の活動記録～」は
こちらの二次元コードより
ご覧ください



令和6年 能登半島地震 ～日赤の活動記録～



被災者と向き合い、寄り添ったあの日の記録



金沢赤十字病院

大正14年に日本赤十字社石川支部産院として創設され、令和7年7月に創立100周年を迎えました。100周年記念デジタルブックを公開しておりますので、ぜひご覧ください。



100周年記念誌
はこちら



石川県赤十字血液センター

昭和40年1月の献血開始以来、多くの県民の皆さまに協力いただき、献血者数累計350万人を達成しました。献血Web会員サービス「ラブブラッド」をご活用いただき、引き続き献血にご協力をお願いいたします。



ラブブラッドの
詳細はこちら



令和8年度予算

令和8年度予算は、石川県支部ホームページに公開しております。詳しくは右の二次元コードよりアクセスしてご確認ください。



 **日本赤十字社** 石川県支部
Japanese Red Cross Society

〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目48番地 石川県医師会・日赤共同ビル1階
TEL:076-239-3880 FAX:076-239-3881
<https://www.jrc.or.jp/chapter/ishikawa>

